

記 録

文書番号	SCJ第22期260707-22400000-14
委員会等名	日本学術会議 言語・文学委員会
標題	第22期 言語・文学委員会活動記録
作成日	平成26年(2014年)7月7日

※ 本資料は、日本学術会議会則第二条に定める意思の表出ではない。掲載されたデータ等には、確認を要するものが含まれる可能性がある。

この記録は、日本学術会議 言語・文学委員会の活動（そのもとにある古典文化と言語分科会、文化の邂逅と言語分科会、科学と日本語分科会の活動を一部含む）を取りまとめ公表するものである。

言語・文学委員会（4名）（委員会の最終的な構成、ただし末尾の所属は委員会発足当時のもの、以下も同様）

委員長 長島 弘明（第一部会員） 東京大学大学院人文社会系研究科教授
副委員長 田口 紀子（第一部会員） 京都大学大学院文学研究科教授
幹事 梶 茂樹（第一部会員） 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授
幹事 藤井 省三（第一部会員） 東京大学大学院人文社会系研究科教授

言語・文学委員会 古典文化と言語分科会（16名）

委員長 逸身喜一郎（連携会員） 東京大学名誉教授
副委員長 身崎 壽（連携会員） 北海道大学名誉教授
幹事 田邊 玲子（連携会員） 京都大学大学院人間・環境学研究科教授
幹事 吉田 豊（連携会員） 京都大学大学院文学研究科教授
田口 紀子（第一部会員） 京都大学大学院文学研究科教授
長島 弘明（第一部会員） 東京大学大学院人文社会系研究科教授
今西祐一郎（連携会員） 人間文化研究機構国文学研究資料館館長
川合 康三（連携会員） 京都大学大学院文学研究科教授
佐藤 昭裕（連携会員） 京都大学大学院文学研究科教授
塩川 徹也（連携会員） 東京大学名誉教授
塩村 耕（連携会員） 名古屋大学大学院文学研究科教授
鈴木 雅之（連携会員） 宮城学院女子大学学芸学部英文学科教授
高橋 義人（連携会員） 平安女学院大学特任教授
竹本 幹夫（連携会員） 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長・文学学術院教授
徳永 宗雄（連携会員） 京都大学名誉教授
花登 正宏（連携会員） 東北大学大学院文学研究科教授

言語・文学委員会 文化の邂逅と言語分科会（15名）

委員長 松浦 純（連携会員） 東京大学大学院人文社会系研究科教授
副委員長 大津由紀雄（連携会員） 慶應義塾大学言語文化研究所教授

幹事 窪 蘭 晴夫（連携会員） 人間文化研究機構国立国語研究所教授
 幹事 渋谷 勝己（連携会員） 大阪大学大学院文学研究科教授
 梶 茂樹（第一部会員） 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授
 藤井 省三（第一部会員） 東京大学大学院人文社会系研究科教授
 伊藤たかね（連携会員） 東京大学大学院総合文化研究科教授
 亀山 郁夫（連携会員） 東京外国語大学学長
 木村 榮一（連携会員） 神戸市外国語大学名誉教授
 才田いずみ（連携会員） 東北大学大学院文学研究科教授
 高橋 和久（連携会員） 東京大学大学院人文社会系研究科教授
 竹村 和子（連携会員） お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授（ご逝去）
 鳥飼玖美子（連携会員） 立教大学特任教授
 林 徹（連携会員） 東京大学大学院人文社会系研究科教授
 望月 恒子（連携会員） 北海道大学大学院文学研究科教授

言語・文学委員会 科学と日本語分科会（12名）

委員長 木部 暢子（連携会員） 人間文化研究機構国立国語研究所副所長
 副委員長 吉田 和彦（連携会員） 京都大学大学院文学研究科教授
 幹事 工藤眞由美（連携会員） 大阪大学大学院文学研究科教授
 幹事 田村 毅（連携会員） 獨協大学外国言語部フランス言語科特任教授
 田口 紀子（第一部会員） 京都大学大学院文学研究科教授
 金水 敏（連携会員） 大阪大学大学院文学研究科教授
 小林 隆（連携会員） 東北大学大学院文学研究科教授
 才田いずみ（連携会員） 東北大学大学院文学研究科教授
 谷川 恵一（連携会員） 人間文化研究機構国文学研究資料館複合領域研究系教授
 原田かづ子（連携会員） 金城学院大学文学部長・大学院文学研究科教授
 福井 直樹（連携会員） 上智大学外国語学部言語学副専攻教授
 松森 晶子（連携会員） 日本女子大学文学部教授

本件の作成には、会議で参考人としてご講演頂いた次の方々の御協力を仰いだ。心から感謝申し上げます。（所属は講演時）

田中英輝氏（NHK 放送技術研究所主任研究員）

米田正人氏（国立国語研究所・名誉所員、統計数理研究所・客員教授）

1. 活動の概要と委員会開催日

* 言語・文学委員会

今期 22 期で扱った諸課題のうち、とりわけ積極的に取り組んだ課題は、以下の 3 つである。

- ①「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：言語・文学分野」の策定
- ②大型研究のロードマップに採用された「日本語の歴史的典籍のデータベースの構築」の推進
- ③情報弱者への情報伝達（特に災害時における）の方法の検討

前期の第 21 期から検討を引き継いだ①については、平成 24 年 7 月 14 日の、公開シンポジウム「学士課程教育における言語・文学分野の参照基準」の開催を経て参照基準策定を完了し、平成 24 年 11 月 30 日付で報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：言語・文学分野」が学術会議のホームページ上において公開されている。

②については、平成 26 年度の文部科学省の概算要求「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」という形で大規模学術フロンティア事業として採択され、まず最初は、画像データベースの構築とそれを用いた国際共同研究のネットワーク作りから始まることになった。今後も、フルテキスト化までこぎ着けるように支援を続けていく。

③については、平成 25 年 9 月 10 日と 12 月 15 日の 2 回にわたり、各回 2 人ずつ情報弱者の問題に詳しい外部の方々をゲストスピーカーとしてお招きし、問題の所在と、それに対応しようとする様々な試みについて詳しい話をうかがった（9 月 10 日のゲストスピーカーの発表原稿は、ご許可を得て、次の「2. 情報弱者の情報伝達（特に災害時における）について」に掲載してあるので参照されたい）。情報弱者への情報伝達の問題の検討は、次期 23 期にも引き継がれる可能性がある。

委員会開催日：平成 23 年 10 月 5 日、同 11 月 25 日、平成 24 年 7 月 14 日、平成 25 年 4 月 2 日、同 6 月 18 日、同 9 月 10 日、同 10 月 2 日、同 12 月 15 日、平成 26 年 4 月 11 日。今期は言語・文学委員会と、そのもとにある 3 分科会が合同会合を催すことが多かった。

* 古典文化と言語分科会

「古典文化と言語分科会」では、親委員会である「言語・文学委員会」に属する他の分科会との合同で活動をするとともに、分科会固有の活動として、所属の各委員から順次、「古典の概念について」、具体的には、「古典」の定義、その意義、カノンとしての普遍性の問題、各国事情、などに関して報告を發表してもらってきた。そして委員の任期が終了したあと、あくまで個人的な立場からであることをふまえつつ、諸報告をまとめた書物の刊行を考えている。

委員会開催日：平成 23 年 11 月 25 日、平成 24 年 3 月 26 日、平成 24 年 7 月 14 日、平成 25 年 6 月 18 日、同 9 月 10 日、同 12 月 15 日、平成 26 年 5 月 30 日。

*文化の邂逅と言語分科会

今期の新課題となった、災害時の情報弱者（非母語話者、障害者など）への情報伝達についての言語面からの検討を、当分科会の課題として始めたが、問題の広がりにより鑑みて言語・文学委員会全体の課題として取り組むこととなり、ゲストスピーカー招待を含めて合同分科会を中心に審議を進めた。

平成 24 年度第 1 回会議において今期の方針を決定、情報弱者への情報伝達ないし情報弱者との言語コミュニケーション態勢の検討を優先課題と決めた。

それに従って、非母語話者とのコミュニケーション手段として有効と考えられる「やさしい日本語」について、知見を深め、問題点を検討。

さらに言語・文学委員会、3 分科会合同会議では、それをもとに、他の分科会委員への紹介と、さらなる検討を行った。

その結果、当分科会で取り組み始めたこの問題を言語・文学委員会全体の課題とすることが確認され、上記のように合同分科会を中心とする取り組みとなった。これは、当分科会の当初からの要望に応じるものでもある。

従って、その後の当分科会の審議は、基本的に委員会全体の審議と一体のものとなった。具体的には、まず、非母語話者とのコミュニケーション手段として有効と考えられる「やさしい日本語」について、報道と言語的研究の分野からゲストスピーカーを招いて、知見を深め、問題の検討を進めた。

障害者の、また障害者とのコミュニケーションの問題についても、ゲストスピーカーを招いた合同分科会を開催し、問題についての理解を深めた。

ゲストスピーカーを招いた、充実した合同分科会を 2 度にわたって開催することを得たため、今期の終わりに計画する予定であった言語・文学委員会、3 分科会合同のシンポジウムは、見送ることとした。

これ以外には、英語教育、ことに現在改編が進められつつある初等教育におけるそのありかたの問題点について、関係委員の報告を中心に議論をおこなった。言語弱者の問題と並んで、言語教育の問題も、時期に引き継ぐべき中心的な課題と考えている。

委員会開催日：平成 23 年 11 月 25 日、平成 24 年 2 月 4 日、平成 24 年 7 月 14 日、平成 25 年 6 月 18 日、同 9 月 10 日、同 12 月 15 日。

*科学と日本語分科会

「科学と日本語」分科会では、次の 2 点を中心に活動を行なった。

- (1) 言語情報弱者に配慮した日本語の問題に関連して、科学技術の面からわかりやすい日本語について検討を加え、やさしい日本語の普及に関する知見を深めた。

(2) 26 年度にスタートする大型事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に関連して、古典籍の画像データ化、くずし字の画像認識等の問題について意見交換を行い、日本語の文字表記の問題について検討を行なった。

(1) については、言語・文学委員会と3分科会が合同で行なった、やさしい日本語に関する講演、意見交換会に参加し、その中で、災害時に関わらず、日常的にやさしい日本語を使用することの必要性、やさしい日本語を社会に普及するためのマスメディアの役割、ネットの役割について意見を述べた。

(2) については、国文学研究資料館の谷川恵一氏より、事業の概要と準備状況の報告が行われ、それを受けて、日本語古典籍の画像データ化、テキスト化に関する意見交換を行なった。その中で、日本語古典籍、約30万点の画像データ化、及び、それらと既存の書誌情報データベースとの統合作業には、異分野間の連携が不可欠であること、古典籍のテキスト化やキーワード拾い出し作業には、異体字、くずし字の画像認識の技術開発が重要であること、日本語の文字表記の多様性の問題も、文字の画像認識との関連で考える可能性があること等の意見が出された。

委員会開催日：平成23年11月25日、平成24年3月19日、平成24年7月14日、平成25年6月18日、同9月10日、同12月15日。

2. 情報弱者への情報伝達（特に災害時における）について

この課題について、平成25年9月10日と、平成25年12月15日の両回、2人ずつゲストスピーカーにお話をお願いしたが、今後の検討にも極めて示唆に富むものであった。このうち、第2回目の12月15日のゲストスピーカーとその発表題目は次の通りである。

① 今井彩子氏「音のない3.11～被災地に聞こえない人もいた～」

② 本田栄子氏「災害時の手話通訳～阪神淡路大震災と東日本大震災～」

この日は、併せて今井彩子氏監督作品『音のない3.11～被災地にろう者もいた～』の上映も行った。

第1回目の9月10日の田中英輝氏と米田正人氏のお話については、発表原稿の公開をご許可いただいているので、次に掲載する。

やさしい日本語ニュースの公開実験「NEWS WEB EASY」の開発と運用

田中英輝 (NHK 放送技術研究所)

要約

NHK では国内に居住する外国人へニュースを分かりやすく伝えるために、ニュースをやさしい日本語で提供する研究を進めてきた。2012年4月からは、研究成果を基にやさしい日本語のニュースの公開を実験サイト「NEWS WEB EASY」で開始し、これは2013年5月からは本格サービスとして継続している。本稿では、ニュースのためのやさしい日本語の設計方針と詳細、公開実験サイトのWebサービスの特徴、ニュースを複数の作業員で安定してやさしく書き換えるための支援システムについて述べる。

1. はじめに

法務省の統計によれば、日本に長期間居住する外国人の数（外国人登録者数）は第2次世界大戦後、基本的に増え続けており、2011年末には207万8,480人、全人口の1.63%に達している¹⁾。全人口の比率は欧米諸国と比較して必ずしも高いとは言えないが、東京都新宿区では外国人の人口が10%を越えるなど、日本でも地域によって欧米諸国並の集中が発生している。

日本国内の外国人で、日本人と同等に日本語が使える外国人は少数であり、このような人々への情報提供は大きな課題である。例えば、国内外外国人の多くが言葉の壁に阻まれ必要な情報に到達できず、日常の不便や不利益を感じている²⁾。また、東日本大震災の後の調査によると、言葉が十分わからないため、大きな大災害のときには大きな混乱・困窮に陥る陥ったことが予想報告されている³⁾。だけでなく、新宿区のように外国人が多く集住する地域で大きな災害が起これば、外国人の困窮は地域全体の不安定さにもつながるとおそれもある。外国人への適切な情報提供は、彼らの生活の保障にとどまらず、日本人も含めた地域の安全・安心にもつながる課題といえる。

外国人へはそれぞれの母語で情報を伝えるのが理想である。実際、母語を使ったサービスは多言語放送で一部実現しているほか、自治体の中には日本語の他に数か国語でホームページを記述・提供している所もある。例えば、神奈川県ホームページでは生活情報や災害情報を多言語とやさしい日本語で提供している⁴⁾。NHKでは国内放送で英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の放送を行っている。しかし、国内の外国人の出身国数は190にも及び、5か国語だけでは多数の外国人が取り残されるという問題が生じている。一方、外国人の全員をカバーするためには、膨大な数の翻訳が必要であり、コストや労力の大きさから実現は難しい。

そこで、最近、母語ではなく、外国人に分かりやすいやさしい日本語で情報を伝えよう

という考えが提唱されている。その背景には、やさしい日本語を理解できる外国人が多いと思われること、外国人の中からも母語の他にやさしい日本語での情報提供を望む声が上がっていることなどがある。実際、外国人のための言語といえば英語を指すことがこれまで多かったが、最近の調査では、英語より日本語が分かる外国人の方が多くなっている⁵⁾。また、東日本大震災の後の調査では、外国人の中からやさしい日本語での情報提供を望む声が上がっている³⁾。

やさしい日本語を使って情報を伝える研究や実践の代表的な例として、阪神淡路大震災の後に提案された災害情報を対象としたやさしい日本語⁶⁾や、自治体の発行する公文書を対象にしたやさしい日本語の研究⁷⁾を挙げることができる。特に、災害情報のやさしい日本語は東日本大震災のときにも使われ、その後も自治体が勉強会を開くなど、普及への動きが活発である。

このような背景の中、NHK では、一般のニュースをやさしい日本語で提供することができれば、外国人への有用な情報提供になると考えて研究を進めてきた。まず、ニュースのためのやさしい日本語への書き換え基準を提案し、やさしい日本語のニュースを提供する場合にはインターネットによって文字でサービスをすることが適していることを報告した⁸⁾。次に、提案した基準に沿ってやさしく書き直したニュースの読解実験を外国人の留学生を対象として実施した。その結果、中級準備程度あるいはそれより下の日本語能力を持つ学生に特に効果的だったことを確認した⁹⁾。また、実際にサービスを行うことを想定して、NHK の記者と日本語教師のペアでニュースをやさしく書き換える方式を提案し、その作業を効率的に行うための支援システムを開発した¹⁰⁾。さらに、研究成果を基に2012年4月にインターネットで公開実験サイト「NEWS WEB EASY」¹¹⁾を立ち上げ、やさしい日本語のニュースの提供を始めた。これは2013年5月からは本格サービスとして続いている。

本稿では、ニュースのためのやさしい日本語の設計方針と詳細、Web サービスの特徴、ニュースを複数の作業員で安定してやさしく書き換えるための2つの支援システム「書き換え支援エディター」と「用例提示システム」について述べる。また、最後に公開実験中に寄せられた反響を紹介し、今後の課題を述べる。

2. ニュースのやさしい日本語

2. 1 やさしい日本語の書き換え方針

言葉をやさしくするということは多くの言語で提案されている。日本語では、先に述べたように、災害時や公文書を対象としたやさしい日本語がある。英語ではOgdenのBasic English¹²⁾English¹²⁾をはじめとして、アメリカの文化や内外のニュースを英語学習者に伝えるために作られたVOA (Voice of America) のSpecial English、企業の情報開示の文書を書くためのPlain Englishなどさまざまなやさしい英語が提案されている。さらに政府が発行する文書は明確な英語で書くよう求めるPlain Language Actが成立している。

やさしい日本語や、やさしい英語を書くためのこれらの基準を見ると、一つ一つの文を短くする、簡単な単語を使う、受動態の代わりに能動態を使う、二重否定を使わないといった規則が共通に使われている。すなわち、これらの基準は言語やジャンルによらない一

一般的な規則と考えることができる。そこで、日本語のニュースの書き換えにもこれらの基準を採用することにした。また、日本語を学ぶ外国人に配慮するために、日本語能力試験の出題基準¹³⁾を採用した。日本語能力試験は外国人が日本語を勉強する際に受験するもので、最上級の1級から入門の4級まで分かれている**1。また、出題基準には、各級で出題される単語や文法事項が規定されている。3級と4級が初級レベルなので、ニュースのやさしい日本語では3級までの語彙と文法事項に原則として従うことにした。さらに、ニュースにしか現れない慣用的な表現をなるべく通常表現に変えることにした。

このように、一般的な規則と日本語能力試験の出題基準の採用、慣用表現の通常表現への書き換えという3つの原則に従ってやさしい日本語のニュースを作成することにした。しかし、実際にニュースを書き換えてみると、この原則が厳しすぎるがあったため、検討の結果、一部を拡張した。以下、語彙、文法、引用、文脈に関わる書き換えの原則と注意点などを説明する。

2. 2 語彙

日本語能力試験の出題基準の3級と4級には合わせて約1,600語の単語が記載されている。基本的にはこの範囲でニュースを書き換えることを原則とした。1,600語の多くは日常生活で使う単語であり、事件、事故、政治、経済、科学、スポーツ、気象などの分野が中心となるニュースに出てくる単語はかなり不足している。例えば、「接待、公共事業、補正予算案、お内裏様」という単語は1,600語には入っていない。対応するやさしい単語があれば置き換えられるが、必ずしもそうはできない。

例えば、「接待」は「ごちそうする」ことであるが、ニュースでは「(不法な)見返りを期待してごちそうすること」という特殊な意味で使われることが多い。このため、単に「ごちそうする」と書き換えたのでは意味が伝わらない。また、「公共事業」はさまざまな工事や施策を総合した広い概念を表す単語であるが、それに相当するやさしい単語は見当たらない。同様なことは「補正予算案」、「お内裏様」にも当てはまる。「補正予算」は政治に現れる専門用語、「お内裏様」は文化に関わる特別な用語で、相当するやさしい単語は見当たらない。以上のように、特殊な意味や広い意味を表す単語、ある分野や文化に強く関わる単語をやさしい単語で置き換えるのは難しいことが多い。

そこで、Webサービスでは、やさしい日本語を使った解説を付け加えることにした。解説には辞書を使う、あるいは、説明や例を連体修飾の形で埋め込むなどの方法を採用した。3章でこれらの詳細を述べる。

2. 3 文法

ここでは文法に関わる文長(文の長さ)、受動態、慣用表現の書き換えの原則と注意点を述べる。

(1) 文長(文の長さ)

ニュースは短時間に多くの情報を伝えようとするので1文が長くなる傾向がある。文が

1 2010年に試験制度が変わり、最上級のN1から入門レベルのN5までの5クラスに変更された。

長くなると係り受けが複雑になることが多い。そこで、やさしい日本語にするためには文を短くするのが効果的である。ニュースのやさしい日本語では原則として1文を50文字以下にした。ただし、文を単純に短くすると意味が変わることがあるので注意を要する。例えば、

「AはBを誘拐し、監禁し、けがを負わせた疑いで逮捕されました。」

という文を次のように分割したとする。

「AはBを誘拐しました。また、監禁しました。そして、けがを負わせた疑いで逮捕されました。」

原文ではAは実際にBを誘拐して監禁したのではなく、その疑いがあるというのに対して、分割した例ではこれらが事実となっている。「誘拐し」と「監禁し」が「疑い」に係っていることを見落とすとこのような分割になってしまう。このように文を短くするときには係り受けに注意して、原文の意味が変わらないようにする必要がある。

(2) 受動態

受動態では意味が間接的になるので、多くの文章作成の参考書では能動態を使って直接的に書くことを勧めている。特に、日本語の場合には受動態の「れる・られる」が可能、自発、尊敬の意味でも使われるので、外国人が混乱する恐れがある。

このことから、ニュースのやさしい日本語では受動態をできるだけ能動態に書き換えることにした。ただし、受動態のままにする場合もある。事件などの被害者を主語にする場合は「お金を盗まれる、頭を殴られる」のように受動態でなければ表現できない。また、原文の中に主語に相当する事物が書かれていない場合も能動態に変えることができない。例えば、

「およそ120件の応募の中から選ばれた日本の建築家グループの設計」

という文では、誰が建築家グループを選んだのかわからないので、能動態にすることができない。

(3) 慣用表現

ニュースには「～としています、～と見られています」や「この事件は～したものです」¹⁴⁾などの独特の慣用表現が多く出てくる。これらは伝聞や推量を客観的に表すことを目的としており、ニュースのために作り出された表現である。日常会話にはほとんど出てこないで、これらをできるだけ普通の表現に書き換えることを原則とした。例えば、

「警察では～としています」

などのように、誰が動作をしたのか書いてあれば

「警察は～と言っています」

というように書き換える。また、文法的な項目は単語と違って文中で簡単に説明できない。このため、書き換えられないときにはそのままとした。

2. 4 引用

ニュースにはカギ括弧に囲まれた引用（発言）が多数現れる。引用は表現そのものが重要かどうかによって書き換えを判断する。特に、表現が重要となるのは失言、感動、スローガン、方言、ジョークなどであり、これらは難しい日本語であっても書き換えず説明な

どを付け加えた。例えば、

「～フランス語で乾杯を意味する『サンテ』と言いながら～」
という文では、「サンテ」は難しいが表現はそのままとし、「サンテ」の前の解説を生かして

「～フランス語で乾杯という意味の『サンテ』と言いながら～」
とする。

一方、表現ではなく内容が重要な引用の場合には、普通の基準に従ってやさしい日本語に書き換える。ほとんどの場合は内容が重要であり書き換えることが可能である。

次に、引用と「です・ます」調の関係について述べる。放送ニュースは新聞と違って地の文^{*2}は「です・ます」調を使う。外国人が最初に学ぶ日本語も「です・ます」調であり、やさしい日本語に有利である。しかし、引用の場合には元の発言のまま「だ・である」調になっていることがある。やさしい日本語では原則としてこれらを「です・ます」調に書き換える。ただし、犯罪者や容疑者の発言などで、引用の持つ印象が変わる場合には「だ・である」をそのまま使う。例えば、

「イラク戦争に関与したイギリスに対する復しゅうだ」
というテロリストの発言を

「イラク戦争に関与したイギリスに対する復しゅうです」
としたのでは発言の印象が変わるので書き換えない。

2. 5 文脈

多くのニュースは情報の羅列ではなく、それらを組み合わせて1つの核心的な情報あるいは事実を伝えている。これらをはっきりさせるためには、文と文の関係を明らかにして論理の流れをはっきりさせることが重要である。やさしい日本語においても文脈を整理して論理の流れを明確にする。

やさしい日本語にするために、長文を分割したり受動態を能動態へ変更したりしたときに文と文の関係、すなわち文脈が不明確になることがある。そのため以下のような処理を行う。

(1) 長文の分割

長文には複数の情報が修飾句の形で埋め込まれている。これらを単純に区切って文にすると、さまざまな主語や主題を持つ文が対等に現れる。その結果、何が大事なのか分かりにくくなることもある。大事なことを明確にするために、文の順序を変更する、周辺的な内容の文は削除する、文間の関係を示す接続詞を補うといった処理を行う。

(2) 態の変更

受動態を能動態に変更すると主語が変わるので、前後の文の主語と合わなくなり、文間の関係がはっきりしなくなることがある。このようなときには、前後の文の主語を変更する、文を削除するといった処理を行う。

2. 6 削除

*2 カギ括弧に入っていない文のこと。

ニュースをやさしくすると、表現の説明が付くので、元のニュースより長くなる。しかし、読む量が増えるということは読者の負担につながるので、次のような文を削除して、基本的に元のニュースより短くする。

(1) 重複の削除

ニュースの各項目は、通常、リードと本文で構成される。リードとはニュースの冒頭の文で、ニュースの要点が書かれている。要点は本文の一部を抜粋して作るため本文と表現が重複することが多い。やさしい日本語ではこの重複した情報を削除する。場合によってはリードそのものを削除する。

(2) 周辺的な情報の削除

文脈の節(2.5節)で述べたように、ニュースには多くの情報が1文に詰め込まれている。従って、長い1文を全て短い文で表現するとそれらの関係が分かりにくくなる。このような場合には周辺的な情報を削除する。場合によっては記事全体から見て周辺的な文全体や段落を削除することもある。

2.7 やさしい日本語の例

やさしい日本語のニュースは日本語能力試験の3級までの範囲に完全には収まっておらず、2級レベルの事項も入っている。恐らく、2級に向けた勉強をしている外国人や中級準備レベルの外国人であればほぼ理解可能だと考えている**3。

1例として、書き換え方針に従って書き換えたやさしい日本語のニュースを示す。

[元のニュース]

3日は、人気キャラクターのドラえもんの誕生日からちょうど100年前にあたり、原作者の藤子・F・不二雄さんが晩年を過ごした神奈川県川崎市はドラえもんに特別に住民票を交付して祝いました。

平成8年に亡くなった藤子・F・不二雄さんの人気漫画「ドラえもん」は2112年9月3日に誕生したとされ、3日はちょうど100年前にあたります。

藤子さんが晩年を過ごした川崎市からドラえもんに特別住民票が交付されることになり、川崎市多摩区にある記念のミュージアムで、阿部孝夫市長からミュージアムの伊藤善章館長に、縦70センチ余り、横50センチ余りのドラえもんの絵柄が入った特別な住民票が手渡されました。

[やさしい日本語のニュース]

有名な漫画のキャラクター、ドラえもんは、2112年9月3日に生まれたことになっているため、ことしの9月3日は100年前の誕生日になります。

ドラえもんを描いたのは、平成8年(1996年)に亡くなった藤子・F・不二雄さんです。

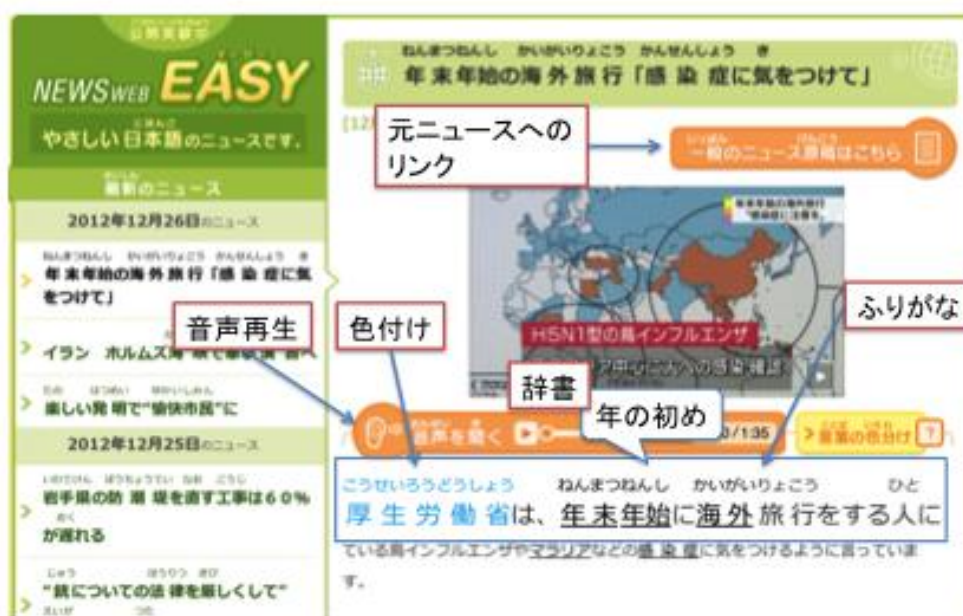
藤子さんは晩年、神奈川県川崎市に住んでいて、川崎市には藤子さんの絵などを集めた記念館もあります。

3 新試験ではN3合格程度。

このため、川崎市はドラえもんの100年前の誕生日を祝うことにしました。
川崎市の市長が記念館の館長に、縦約70cm、横約50cmのドラえもんの絵が描いてある特別な住民票（=住民の名前や生まれた日などを記録する書類）を渡しました。

3. Web サービスの特徴

ニュースをやさしい日本語にするためには、2章で述べたような日本語の書き換えが中心となる。しかし、表現の変更だけではあまりやさしくならない部分がある。そのような部分でもWebを使って分かりやすくできることがある。そこで、NEWS WEB EASYで行っているWebでの工夫を以下に述べる。1図にNEWS WEB EASYの画面の例を示す（公開実験時の画面）。



1図 NEWS WEB EASYのサービス画面の例

3. 1 ふりがな

外国人にとって漢字を読むことは難しい。そこで、全ての漢字にふりがな（ルビ）を付ける。

3. 2 辞書

できるだけやさしい単語を使っているが、語彙の節（2. 2節）で述べたように難しい単語が残ることがある。そこで、Web画面では難しい単語に辞書の説明を表示できるようにした。現在は、原則として2級以上の難しい単語にカーソルを合わせると小学生用辞書¹⁵⁾の説明が現れる。

3. 3 解説

辞書に入っている単語には限りがある。特に、ニュースには新しい単語が頻繁に現れる。

そこで、このようなときには、本文中に説明を付け加えるようにした。具体的には「住民票（＝住民の名前や生まれた日などを記録する書類）」のように括弧を付けて説明するか、連体修飾で説明を付ける。また、独立した文で説明を付け加えることもある。なお、連体修飾を使いすぎると文が長くなって分かりにくくなる場合があるので、その他の方法を併用するようにした。

3. 4 単語の色分け

ニュースには地名、会社名、人名が頻繁に出てくる。これらは辞書にほとんど入っていない。また、数が多いので説明を付ける作業が大変である。そこで、あらかじめ決めた色でこれらを表示することになっている。これにより、漢字文字列の意味が具体的には分からなくても、色を見ることで地名か、人名か、組織名（会社名）かの判断ができる。

3. 5 合成音声

読むのが苦手でも聞くのは得意な外国人のために、合成音声で原稿を読み上げる機能を付加している。読み上げスピードは普通よりやや遅めに設定している。

3. 6 元のニュースへのリンク

やさしい日本語のニュースには、元のニュースへのリンクを付けている。元のニュースの多くには映像と音声が付いていて、特に、映像が理解の助けになることが多い。「きりたんぼ」をやさしく説明するのは簡単ではないが、実際に「きりたんぼ」をいろいろ端で食べている映像があれば、食べ物であること、火にあぶることなどが分かる。

4. 日々の運用と書き換え支援システム

やさしい日本語のニュースを Web で提供する公開実験を 2012 年 4 月に、2013 年 5 月には本格サービスを開始した。土日と祝日を除いて月曜から金曜まで毎日、5 本の普通のニュースをやさしい日本語に書き換えて提供している。以下、日々の運用状況を説明する。

4. 1 運用体制と手順

やさしい日本語のニュースの書き換えには、やさしい日本語がどのようなものを理解していること、記事の内容の判断ができることが必要である。公開実験を開始した時点ではこの両方を併せ持った人はほとんどいなかったもので、やさしい日本語を学んだベテラン日本語教師と記者（経験者）が共同で作業をすることにした。主に日本語教師が表現をやさしくし、記者が内容に関わる書き換えや削除、確認などを行う。現在は日本語教師 2 名と記者 1 名の作業チームが書き換えを行っている。この他、提供するニュースの選択や最終的な確認を行うデスク（記者）と Web ページを作成する技術スタッフなどが運用に参加している。

書き換え作業は以下の流れで進む。

- ①記事の選定
- ②日本語教師と記者（経験者）による書き換え
- ③デスクによる確認
- ④ふりがな、辞書、色分けデータの作成
- ⑤音声合成データの作成

⑥最終的なページの作成

やさしい日本語のニュースは外国人を想定して設計しているが、書き換え方針（2. 1節）で述べたように一般的な規則にも従っているため、外国人だけでなく、日本人にとってもやさしく分かりやすい可能性がある。特に、子どもにやさしいことが期待できる。このような期待から、子どもも対象に入れて NEWS WEB EASY のサービスを始めた。そのため、記事の選択は、原則として前日の大きな話題を1本と、残りは外国人や子どもが共通して興味を持ちそうな話題から選んでいる。

毎朝、ニュースを選択し、まず、やさしい日本語への書き換えを行う。デスクの確認を取った後に、ふりがな、辞書、色分け、合成音などの付属データを作成して最終的に Web ページに掲載する。

作業には多くのコンピューター支援システムを使っている。以下、この中で最も時間のかかる書き換え作業の支援システムを説明する¹⁰⁾。

4. 2 書き換え支援システム

当初、日本語への書き換えに2つの課題があった。1つは、やさしい日本語の均質性である。書き換えを行うチームは毎日交代する。どのチームが書き換えを行っても同じレベルのやさしい日本語にする必要がある。しかし、当初は作業に慣れてなくいないため、やさしい日本語にばらつきが出やすかった。他の1つは「書き戻し」である。日本語教師は主にニュースの表現をやさしくする。日本語教師がニュースらしい表現を普通の表現にすると、記者がそれをニュースらしい元の表現に戻すことがあった。さらに、日本語教師が元に戻った表現を再びやさしい表現に戻すこともあった。時には2人の間でこのような「書き戻し」が頻繁に起こり、作業が進まなくなることがあった。

以上の2つの問題を解決するために、書き換え支援エディターと用例提示システムを開発した。

(1) 書き換え支援エディター

書き換えは「原文→記者→日本語教師→記者→日本語教師→」のように日本語教師と記者が交互に行い、最後は記者の確認で終わる。この2人の書き換え作業を支援するために書き換え支援エディターを開発した。

エディターの画面には、原文と直前の書き換えが文ごとに表示され、作業者はこれを見ながら書き換える。画面に表示されている文中の語には難しさに応じた色が付けられている。2図に示すように色は日本語能力試験の級に対応していて、作業者は1級（赤？暗い赤）、2級（黄？）、級外（緑？明るい赤、日本語能力試験の出題基準に収録されていない語）の難しい単語に注目して書き換える。また、またエディターの別な画面では各文の長さ（文字数）が色別に表示されていて、文字数が80を超える場合には赤で表示されるなど、長文に注意が向くようになっている。

このようにシステムが書き換え方針に従って、作業者に難しい単語や文を色と数字で示すので、どの作業チームも同じ部分に注目することになる。その結果、やさしい日本語のばらつきを減らす効果が生まれた。また、自分の書き換えによって単語の級が難しくなる、

あるいは文が長くなることも色と数字で分かるので、やさしい日本語を元に戻す「書き戻し」が減った。

書き換え支援エディターでは、記事全体の難易度を示した。難易度は難語率（記事中の1級、2級、級外の語の合計の割合）、（平均）文長、記事長の3つを掛けた値である。各値は小さいほどやさしいことを意味するので、難易度の値が小さいほど記事全体がやさしいことを意味することになる。

作業者は、個々の文や単語をやさしくするとともに、記事全体の難易度が小さくなるように作業する。2図に書き換え支援エディターで元のニュース、日本語教師書き換え、記者校閲を比較した画面を示す。



2図 書き換え支援エディターの記事比較表示

元のニュースと比較して、日本語教師の書き換えには説明が付くので記事が長くなっているが、記者校閲の結果、記事が短くなっていることが分かる。また、単語の色に注目すると原文にある赤や黄色の難しい単語が日本語教師書き換えでは減り、緑や青のやさしい単語が増えていることが分かる。さらに、記事全体の難易度が 5,521 から最終的に 1,773 に減っていることも分かる。

(2) 用例検索システム

日々、作成されるやさしい日本語のニュースと元のニュースを自動的に蓄積する用例検索システムを開発した。用例検索システムを使うことでいろいろな表現、例えば、「～と

しています」という表現の書き換え例を瞬時に検索することができる。書き換え例を参照することで書き換えのスピードを上げるだけでなく、作業チームによるばらつきを小さくすることもできる。

用例検索システムはNHKの国際放送で必要な17言語への翻訳作業を支援するために開発していたもので、翻訳現場で日々活用されていた¹⁵¹⁶⁾。やさしい日本語への書き換えは一種の翻訳作業なので、同じシステムが有効であろうと考えて使うことにした。実際、最近ではデータベース内の記事が増えて、いろいろな表現が見つかるようになり、頻繁に使われるようになっている。

6. おわりに

2012年の4月に公開実験を始めて以後、国内だけでなく外国在住の方からも好意的な意見を多数いただいている。この中で、特に、日本語の学習教材として高い期待のあることが分かった。また知的障害を持つ方からも期待されていることが分かった。

今後の課題は大きく分けて2つある。1つはやさしい日本語の更なる改良である。現在のやさしい日本語のニュースは、事前の評価実験⁹⁷⁾などに基づいてから、想定した中級準備レベルの日本語能力を持つ外国人には効果的だと考えている。今後は現在のNEWS WEB EASYで提供しているニュースを使った評価実験を定期的に行いたい。既に、小中学生と外国人を対象に理解度テストを一度行い、想定レベルに達している中級準備レベルの外国人と小学生に高い効果を持つことなどを確認している¹⁷⁶⁾。今後、さらに詳細な評価実験を行い、やさしい日本語を改良していく予定である。

他の1つは書き換えの効率化である。本格的なサービスを行うためには多くの記事を書き換える必要がある。ただし、労力やコストを大幅に増やすことはできないので、書き換え支援システムに自動処理技術を導入していくことが必須となる。既に、内容をほとんど変えずに表現をやさしくする日本語教師の作業に自動処理技術を導入する検討を始めており、現在、文の分割と部分的な書き換えを使った手法を検討している¹⁸⁷⁾。今後、さらに言語間の自動翻訳技術の適用を検討する予定である。

参考文献

- 1) http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00015.html
- 2) 金田：“「生活のための日本語」に関する基盤的研究～段階的発達の支援をめざして～中間報告書，”平成20年度～23年度科学研究費補助金 基盤研究 B，研究成果報告書 中間報告 (2010)
- 3) 米倉：“災害時における在日外国人のメディア利用と情報行動～4国籍外国人を対象とした電話アンケートの結果から～，”放送研究と調査，pp. 62-75, August (2012)
- 4) <http://www.pref.kanagawa.jp/div/0215/> (2013年2月現在)
- 5) 岩田：“言語サービスにおける英語指向－「生活のための日本語：全国調査」結果と広島事例から，”社会言語科学，Vol. 13, No. 1, pp. 81-94 (2010)

- 6) 佐藤：“災害時の言語表現を考える，” 日本語学, Vol. 23, No. 8, pp. 34-45 (2004)
- 7) 庵, 岩田, 森：“「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え～多文化共生と日本語教育文法の接点を求めて～，” 2009 年度日本語教育学会秋季大会予稿集, pp. 135-140 (2009)
- 8) 田中, 美野：“やさしい日本語によるニュースの書き換え実験，” 情処研資, Vol. 2010-NL-199, No. 11 (2010)
- 9) 田中, 美野：“「やさしい日本語」ニュースの理解度テスト～ニュースのための「やさしい日本語」の設計に向けて～，” 信学技法, NLC-2011-22 (2011)
- 10) 美野, 田中：“ニュース原稿のやさしい日本語ニュースへの書き換え支援ツール～日本在住外国人のために～，” 2012 年映メ学会年次大会, No. 18-6 (2012)
- 11) <http://www3.nhk.or.jp/news/easy/>
- 12) C. K. Ogden : Basic English, a General Introduction with Rules and Grammar, London, Paul Treber & Co., Ltd. (1930)
- 13) 国際交流基金, 国際教育支援協会：日本語能力試験出題基準 改訂版, 凡人社 (2002)
- 14) 田中：“「この事件は～したものです」などの表現をめぐって，” 放送研究と調査, pp. 72-82, May (2012)
- 15) 田近：例解小学国語辞典 第五版, 三省堂 (2011)
- 16) 後藤, 田中：“多言語翻訳用例提示システムの開発と運用，” 2004 年映メ学会年次大会, No. 21-1 (2004)
- 17) 田中, 美野：“やさしい日本語ニュースの公開実験サイト「NEWS WEB EASY」の評価実験，” 情処研資, Vol. 2012-NL-209, No. 9 (2012)
- 18) 美野, 田中：“やさしい日本語ニュースのための自動文分割”，言語処理学会第 19 回年次大会予稿集, pp. 264-267 (2013)

減災のための「やさしい日本語」

米田正人（国立国語研究所・名誉所員、統計数理研究所・客員教授）

0. はじめに

1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災は非常に大きな被害をもたらし、死者、負傷者も想像を絶する数にのぼった。被災した人々の中には多数の外国人が含まれ、死者、負傷者は日本人のそれをはるかにしのぐ割合となった。発災後半日くらいして、外国人被災者に対して英語での情報提供が始まったが、英語のわからない外国人被災者がかなりの数にのぼり、英語だけによる情報の伝達には限界があることが判明した。

過去の様々な災害例では、発災後外部からの援助が始まるまでの72時間（3日間）が被災者の生死を分けると言われている。その72時間に、情報弱者となりやすい外国人を含めたあらゆる人々たちに対する救助、支援、情報発信が重要となる。しかし、それらをすべき立場の人々や組織全体が被災している中で、災害情報を多言語に翻訳し、発信する時間的、組織的な余裕はない。

そこで我々が考えたのが「やさしい日本語」による情報の提供である。日本に滞在する外国人であれば、ある程度の日本語を理解できる可能性があるであろうことから、救援体制の整うまで、せめて発災からの72時間を乗り切るまで、情報弱者になりやすい外国人に「やさしい日本語」でも情報を提供することが有効ではないかと考えた次第である。

研究会誌から20年近くが経過し、その間、「やさしい日本語」そのものがどのようにあるべきか、実際に理解してもらえるものになっているのか等々、作成指針の改訂を繰り返し、何度も理解度の実験を行ってきた。さらに、Yansisと名付けた「やさしい日本語」作成支援システムも作成した。また、机上の研究だけでなく、阪神淡路大震災以降に発生したいくつかの災害（主に地震）での情報提供にも協力してきた（2. 参照）。その甲斐あってか、公共団体やボランティアの方々の間にも、少しずつではあるが、「やさしい日本語」の価値を認める人たちが増えてきている。

1. これまでの研究・活動の流れ

- ・阪神淡路大震災からまもなくして、数人の言語研究者が中心となって「日本語を母語としない人々のための緊急時言語対策に関する研究」を開始し、被災した外国人がどのようにして情報を得たかについて調査を行った。その結果を踏まえ、多言語による情報の提供とともに「やさしい日本語」による情報の提供が必要であることを指摘した。
- ・初級後半から中級にかけての日本語学習経験者が理解できる災害時報道をめざし

て「やさしい日本語」の案文を作成し、構文上の留意点や語彙の選定方法、音読時のポーズの置き方について提案した。

- ・放送用案文のほかに、ポスター・ちらし等での表記法、視覚情報の提示の仕方等を提案した。
- ・地域の事情に即した内容にアレンジ可能なポスターのひな形等を含むマニュアルを制作するとともに、消防を含む地域の行政サービス・スタッフ、コミュニティFMスタッフ、医師、社会調査・統計学研究者らをメンバーに迎え、「やさしい日本語」によるアナウンスの聴取実験等を行った（「やさしい日本語」研究会2007）。
- ・日本語教育の専門家ではない行政スタッフ、NPO法人スタッフ、ボランティアなどが「やさしい日本語」による文章作成を行う際に役立つコンピュータソフトの必要性が意識されるようになり、2007年に伊藤彰則（東北大学）が開発に着手した。2008年の試作版から数度の修正を経て、現在では「やさしい日本語」作成支援システム（Yansis ver1.1）に至り、さらなる改良を試みている。Yansisのダウンロードサイトは以下のとおりである。

<http://www.makino.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>

2. 社会的貢献

減災のための「やさしい日本語」研究会メンバーは、各地の市民団体・地方公共団体の求めに応じて「やさしい日本語」案文作成ワークショップに講師を派遣とともに、地震災害の際の「やさしい日本語」による情報提供の実務の一端を担ってきた。

2004年10月の中越地震、2007年の中越沖地震では被災地からの求めに応じて避難所で掲示するためのポスターを提供した。

2011年に起きた東日本大震災ではNPO法人多文化共生マネージャー全国協議会の要請を受けてwebサイトでの情報提供のための「やさしい日本語」化を行った。

3. 「やさしい日本語」化の方針

「やさしい日本語」の作成手順としては、以下の(1)-(5)の順にパラグラフ単位で構想し、推敲を繰り返すことになる。

- (1) 重要な内容は何かを見定める。
- (2) 地震に不慣れな人にとって必要な情報を付け加える。
- (3) 情報の配列を考える。
- (4) やさしい単語、重要な災害用語で単純な構造の文を組み立てる。
- (5) 重要な災害用語の言い換え表現の文を挿入する。

以下に、実際に放送されたNHKニュースのアナウンスを例に、「やさしい日本語」の実例を示し、「やさしい日本語」化の具体的方針について述べることにする（以下では、「やさしい日本語」の案分は網かけで表示することとする）。

具体例 1

(1995年1月17日NHKニュース)

けさ5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を震源とするマグニチュード7.2の直下型の大きな地震があり、神戸と洲本で震度6を記録するなど、近畿地方を中心に広い範囲で強い揺れに見舞われました。



(やさしい日本語)

今日、朝、5時46分、兵庫、大阪などで、大きい地震がありました。
神戸は震度6でした。地震の強さは震度6でした。

具体例 2

(1995年1月17日NHKニュース)

気象庁では、今後もしばらく余震が続くうえ、やや規模の大きな余震が起きるおそれもあるとして、地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物には近づかないようにするなど、余震に対して十分注意してほしいと呼びかけています。



(やさしい日本語)

気象庁からお知らせがありました。余震があるかもしれません。また地震があるかもしれません。気をつけてください。地震でこわれた建物の近くに行かないでください。

上記のとおり(1)から(5)の手順に従って「やさしい日本語」化の作業を進めることになるが、作業を進める上での主な留意点をまとめると以下ようになる。

< 談話 >

- ・ 定型化した談話構造を使用する。

例：トピック提示or呼びかけ→行動指示→理由説明

- ・ 重要な内容（行動指示）をもつ文を繰り返す。
- ・ 災害基本語彙の説明・言い換えを含む文を繰り返す。

例：海の近くにいる人は海岸から離れて高台に逃げるなど、念のため津波に注意してください。

- 海の近くにいる人をお願いします。【呼びかけ】
- すぐに海から離れてください。【行動指示1】
- そして、高いところに逃げてください。【行動指示2】
- 海から津波が来るかもしれません。【理由説明】
- 海から大きくて速い波が来るかもしれません。【災害用語の言い換え】
- すぐに海から離れてください。【行動指示1繰り返し】
- そして、高いところに逃げてください。【行動指示2繰り返し】

<文法>

- ・長文を分割して短文にする（原則として30モーラ以下とする）ことによって複雑な埋め込み文や離れた単語に係る係り受け、あいまいな係り受けなどを避ける。

例：連絡が取れない家族や知り合いのために、避難先を書いた張り紙をしておきましょう。【42拍】

- 家から逃げる人をお願いします。【17拍】
- 家族や友達にメモを書いてください。【19拍】
- そして、ドアの外に貼ってください。【16拍】
- あとであなたを捜す人の役に立ちます。【20拍】

- ・「を」格や「に」格の名詞にできるだけ「は」をつけない。
- ・名詞が列挙されるのを避け、助詞「や」を補う。
- ・受身表現、使役表現を避ける。また、可能は「～することができます」で表す。

<語彙>

- ・やさしい単語によって難しい単語を言い換える（日本語能力試験旧4級・3級の語彙に置き換え、3級語彙の言い換えが可能な場合、よりやさしいものにする）。

例：地震です。〇〇放送局のスタジオはかなり揺れています。落ち着いてください。揺れは間もなくおさまります。

- 地震です。〇〇放送局は地震で揺れています。落ち着いてください。地震はもうすぐ止まります。

- ・災害基本語彙はそのまま使う（説明・言い換えを含む文を直後に添える）。
- ・カタカナ外来語の選び方に注意する。

例：ライフライン、ダイヤル、デマ等を避ける。

- ・擬音語、擬態語を避ける。
- ・可能動詞を避ける。

<その他の表現など>

- ・曖昧な表現や多義的な表現を避ける。
- ・二重否定を避ける。
- ・抽象的な表現を使わず具体的な表現を使う。

- ・複数のコメントにおいて類似の内容を持つものは、定型化した表現に統一する。

例：火事が心配です。火を消しましょう。ガスがついていませんか。ストーブは消しましたか。

→火事になったら大変です。火を消して下さい。ガスを消して下さい。ストーブを消して下さい。

例：階段の上り下りには十分注意して下さい。慌てて階段を踏み外したり転んだりしてケガをすることがあります。

→ケガをしたら大変です。階段は、よく見て、ゆっくり歩いて下さい。

例：海の近くにいる人は海岸から離れて高台に逃げるなど、念のため津波に注意して下さい。【揺れている最中（発生から1分くらいの間）】
震源地はまだ分かりませんが、海の近くにいる人は念のため津波を警戒して下さい。【揺れがおさまった後（1分経過～3分後）】

→海の近くにいる人をお願いします。すぐに海から離れてください。そして、高いところに逃げてください。

海から津波が来るかもしれません。海から大きくて速い波が来るかもしれません。すぐに海から離れてください。そして、高いところに逃げてください。

- ・例示が多い場合は簡略化する。
- ・地震をよく知らない人に必要な基本的情報を付け加える。

例：消防車や救急車を呼ぶとき以外は、電話はしばらく使わないでください。電話の受話器が外れていたら、元に戻してください。

→1. 電話はできるだけかけないでください。電話器が外れていたら元に戻してください。

2. 火事のとくとケガをしたときだけ電話をかけてください。火事のとくとケガをしたときは「119（ひゃくじゅうきゅう）番」に電話してください。

「119（いちいちきゅう）」に電話してください。

4. 「やさしい日本語」の有効性に関する検証実験

「やさしい日本語」研究会ではこれまでに、「やさしい日本語」の有効性に関する調査や検証実験を繰り返し行ってきた。それらを列記すると以下ようになる。

(1) 1998年11月～12月 於神戸大学留学生別科

中国、韓国、スペイン、イギリス、アメリカ等14か国からの留学生等36人を対象とした調査。

(2) 2004年5月15日 於弘前大学

中国、韓国、ドイツ等8か国からの留学生20人を対象とした予備・予備実験

- (3) 2004年12月19日 於東京農工大学
中国、韓国、インドネシア、ネパール等10か国からの留学生26人を対象とした予備実験
- (4) 2005年10月23日 於弘前市体育館、弘前青少年勤労センター
中国、韓国、マレーシア、タイ等13か国からの留学生88人を対象とした本実験。同時に小学校低学年児30人にも被験者として参加してもらった。
- (5) 2007年2月3日 於群馬県総合教育センター（伊勢崎市）
ブラジル、ペルーからの外国人労働者とその家族40人を対象とした調査。
- (6) 2007年6月24日 於伊勢崎市文化会館大会議室
ブラジル、ペルーからの外国人労働者とその家族42人（フィリピン人、ボリビア人各1名を含む）を対象とした補充調査。
- (7) 2009年8月8日 於浜松市遠州浜団地
ブラジルからの外国人労働者とその家族23人を対象とした調査。
- (8) 2009年8月9日 於浜松国際交流協会（HICE、浜松市）
ブラジルからの外国人労働者とその家族34人を対象とした調査。
- (9) 2009年8月15日 於浜松カトリック教会
ブラジルからの外国人労働者とその家族39人を対象とした補充調査。

上記の中から、2005年に弘前市で行った本実験について概略を示すことにする。この実験は、外国人をはじめとする情報弱者と言われる人たちにとって、ふつうの日本語（NJ）に比べて「やさしい日本語」（EJ）による情報伝達が有効であることを量的に明らかにすることが目的であった。そのために弘前市体育館と弘前青少年勤労センターを借りきって、大がかりな実験の場を準備した（写真参照）。



実験では、EJとNJによる行動の指示を行い、指示通りの行動がとれたかどうかによって指示が理解できたかどうかを判定することとした。指示はEJ、NJそれぞれに

聴解と読解3種類ずつ計6種類を準備した（表1参照）。

聴解： 話し言葉による指示を行う（ラジオによるアナウンスを想定）

読解： 書き言葉による指示を行う（ポスター等の掲示物を想定）

表1 やさしい日本語（EJ）とふつうの日本語（NJ）による行動指示

聴解実 験	1. ガスの火を消 す	EJ	ガスの火を消してください
		NJ	火の元の安全を確認してください
	2. 頭部保護	EJ	あぶないので、帽子をかぶってください
		NJ	落下物に備えて、頭部を保護してください
	3. 避難指示	EJ	それでは、逃げてください
		NJ	それでは、避難してください
読解実 験	4. 手を清潔に	EJ	手をふいてください
		NJ	手を清潔にしてください
	5. 飲料水確保	EJ	水を一本持って行ってください
		NJ	飲料水を一本お持ち帰りください
	6. 避難禁止	EJ	ここから出てください ここから出てはいけません
		NJ	この出口を使用して避難してください この出口は避難には使用できません

被験者：日本語能力検定試験3級レベルの留学生を中心にして被験者を依頼した（結果として2級レベルも混じる）。被験者としては青森中央学院大学と弘前大学の留学生から88名が集められた。また、被験者の国籍は以下の通りであった（括弧内は人数）。

中国（30）、マレーシア（23）、韓国（8）、タイ（7）、フランス（5）、ドイツ（4）、ベトナム（3）、ルーマニア（2）、アメリカ（2）、チリ（1）、パラグアイ（1）、ハンガリー（1）、オーストラリア（1）

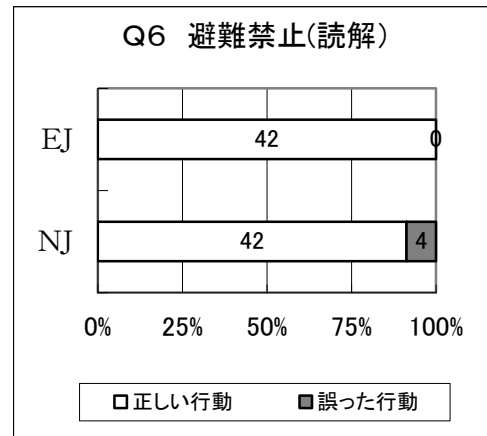
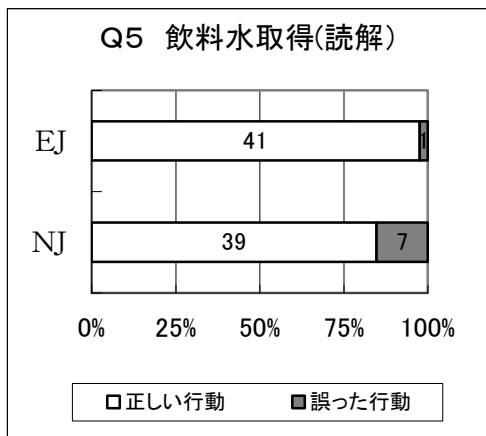
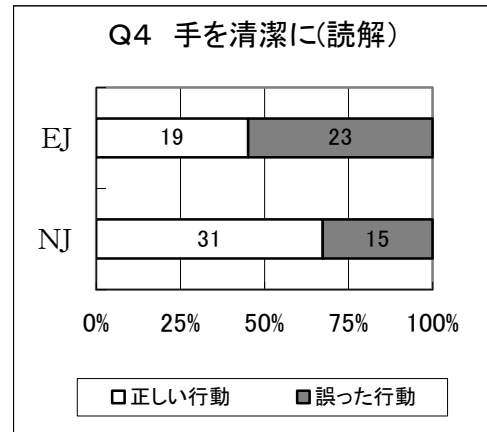
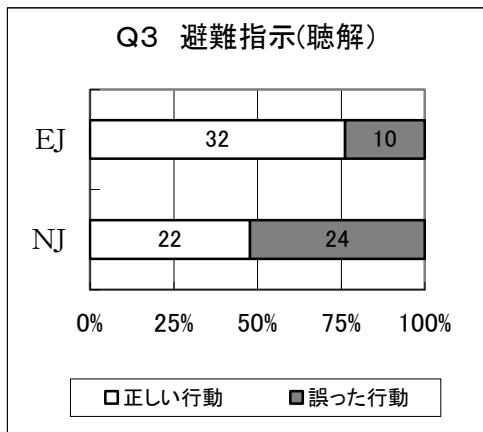
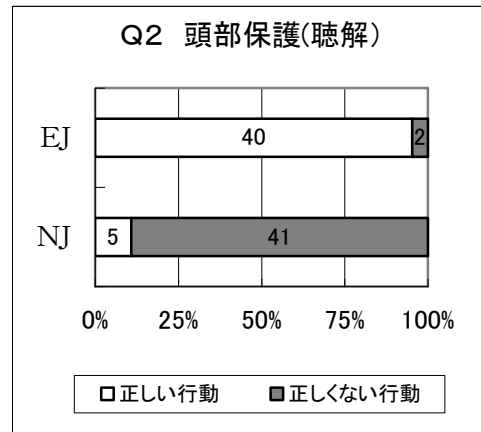
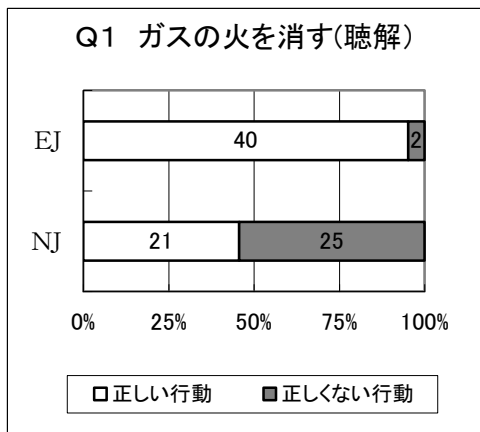


上の写真からも判るように、会場にはEJで指示を与えるコースとNJで指示を与えるコースが準備され、それぞれのコースで聴解、読解併せて6つの指示が行われた。それぞれの指示の場面には観察者が待機し、被験者の行動を記録した。さらにコース内に於ける被験者のすべての行動をビデオに記録した。

結果は下の図に示したとおりとなった。

聴解の3問については、程度の差はあるものの、いずれのケースでもEJによる指示が正しい行動を誘発する結果となっている。しかし読解についてはそのような結果とはならなかった。Q5（飲料水取得）とQ6（避難禁止）では若干EJによる指示の方が正しい行動の率が高かったものの、Q4（手を清潔に）ではEJによる指示よりもNJによる指示の方が正しい行動をした被験者が多いという結果となった。被験者の中に漢字圏の出身者が多くいたことが影響し、彼らにとっては漢字をひらがなにすることがわかりやすさに対して逆効果になることを示した事例となった。

このような実験結果を踏まえて、「やさしい日本語」研究会ではその後も「やさしい日本語」の研究を進め、話し言葉もさることながら、書き言葉によるポスター等の表記についても改訂を繰り返し、現在に至っている。



5. 減災のための「やさしい日本語」研究会 メンバー

減災のための「やさしい日本語」研究会には多くの研究者やマスコミ、行政の方々、また医療関係者などが参加している。以下にその主だった方々を列記しておくことにする。長いこと研究代表者を務めてくれている弘前大学の佐藤和之教授を筆頭に、以下五十音順で氏名と所属を記すことにする。

佐藤 和之 (弘前大学・教授)

朝日 茂樹 (元弘前大学・助教授)

伊藤 彰則 (東北大学・教授)

伊藤 健人 (群馬県立女子大学・講師)
梅沢 光一 (技攷社・代表取締役)
鹿嶋 彰 (弘前大学・准教授)
工藤 浩 (弘前市役所・主査)
柴田 実 (NHK放送文化研究所・主任研究員)
庄司 輝昭 (NPO法人CAST・会員)
杉戸 清樹 (国立国語研究所・名誉所員)
中村 康司 (弘前消防本部・主査)
波多野厚緑 (アップルウェブ・取締役)
馬場 康維 (統計数理研究所・教授)
藤盛 嘉章 (藤盛医院・院長)
星野 崇宏 (名古屋大学・准教授)
前田理佳子 (大東文化大学・講師)
松田 陽子 (兵庫県立大学・教授)
水野 義道 (京都工芸繊維大学・教授)
御園生保子 (東京農工大学・教授)
米田 正人 (国立国語研究所・名誉所員)
米山 順一 (大修館書店・次長)

以 上

参考文献・参考情報

- ・真田信治 (1996), 「『緊急時言語対策』の研究について」, 『月刊言語』25-1 (1996年1月号)
- ・松田陽子 (1996), 「多様な外国人に対する情報提供を考える」, 『月刊言語』25-3 (1996年3月号)
- ・「災害時の日本語」研究グループ (1999), 『災害時に使う外国人のための日本語案文: ラジオや掲示物などに使うやさしい日本語表現』, 国立国語研究所新プロ「日本語」事務局
- ・松田陽子・前田理佳子・佐藤和之 (2000), 「災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論」, 『日本語科学』7, 国立国語研究所
- ・弘前大学人文学部国語学研究室・減災のための「やさしい日本語」研究会 (2005), 『新版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』, 弘前大学人文学部国語学研究室 (=『災害が起こった時に外国人を助けるためのマニュアル (弘前版)』 (1999) の改訂版)
- ・「やさしい日本語」研究会 (2007), 『「やさしい日本語」が外国人の命を救う: 情報弱者への情報提供の在り方を考える』, 「やさしい日本語」研究会
- ・佐藤和之編著 (2009), 『「やさしい日本語」の構造: 社会的ニーズへの適用に

向けて』，弘前大学人文学部社会言語学研究室

- ・前田理佳子（2009），「防災・やさしい日本語」『移民政策へのアプローチ：ライフサイクルと多文化共生』第7章「ともに地域をつくる」，明石書店
- ・水野義道・御園生保子・前田理佳子・鹿嶋彰・伊藤彰訓・米田正人・佐藤和之（2010），「減災のための『やさしい日本語』の特徴と『やさしい日本語』作成支援システム開発」，『日本言語政策学会第12回大会予稿集』，日本言語政策学会
- ・弘前大学人文学部社会言語学研究室「やさしい日本語とは」
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm> 弘前大学人文学部社会言語学研究室（2014.3.1アクセス）
- ・廣井脩ほか「災害放送研究プロジェクト」 「3. 緊急コメント（音声入り）」
http://www.hiroi.iii.u-tokyo.ac.jp/index-katudo-kyodo.kenkyu-saigai_hoso-shoki_comment_honbun.htm
http://www.hiroi.iii.u-tokyo.ac.jp/index-katudo-kyodo.kenkyu-saigai_hoso-shoki_comment_honbun02.htm 廣井脩研究室（2014.3.1アクセス）
- ・前田理佳子「外国人に対する災害時の『やさしい日本語』による情報伝達」ウェブマガジン『留学交流』2013年3月号 日本学生支援機構
<http://www.jasso.go.jp/about/webmagazine201303.html> （2014.3.1アクセス）

付記

本報告書を記すにあたり、研究会の中心的メンバーである大東文化大学の前田理佳子先生の多大なるお力添えをいただいたことをここに明記する。